

## 敵基地攻撃能力・軍事研究・日本学術会議再編 —戦争ができる国作りの現段階を考える—

2021年3月1日(ビキニ水爆実験 第五福竜丸など被曝67年)18:30~20:30

小沼通二(こぬまみちじ)

### (1) 私の考え

#### 1-1 敵基地攻撃能力

「敵」という憲法違反の言葉がメディアに抵抗なく出ていることに、大きな違和感を持ち続けています。能力を持つというのは、必要な場合使うということです。敵基地を攻撃した場合、それで収まるという保証は全くありません。拡大のリスクは杞憂ではありません。しかも攻撃を受けたら反撃するという話ではありません。先制攻撃です。これは1928年の不戦条約、45年の国連憲章、46年に成立し、47年に施行された日本国憲法に違反します。周辺国が友好的でないといって一国が先制攻撃の政策を持てば、それらの周辺国はさらに軍備を拡充しその地域の緊張は高まり、軍拡競争を加速します。専守防衛を超える外国との軍事協力はやめて、外交努力を強化して、平和と独立を守り、国と国民の安全を保つために世界各国、特に周辺国との関係改善に努めることこそが追及すべき方向です

#### 1-2 軍事研究

防衛省予算による研究開発、防衛産業との協力による研究開発は軍事研究です。民政に役立つ研究だ、基礎研究だといっても、自衛隊や輸出用の武器開発に必要な研究開発が支援・委託・助成されるのです。憲法を無視し、専守防衛、武器輸出禁止をやめる政府が、軍事強国・民生弱国を目指す中で、防衛省予算あるいは海外の軍事予算を受ける研究者は、研究の倫理にもとると考えます。

#### 1-3 日本学術会議再編

「再編」したいところはいくらでもあります。しかしその前に「6人の任命」と「拒否理由の説明」が必要です。87万人の科学者の代表だというのですから、「再編」は科学者の意向を踏まえて冷静な状況の下で行うべきで、拙速はマイナスです。社会的知名度が高くなかった学術会議の問題が短時間で広がったのは、第2次安倍政権以来の異論を許さない体質の政治が原因であることが見抜かれたためでした。歴史から学ばないと同じ失敗を繰り返します。

#### 1-4 戦争ができる国作り

少子高齢化は止まらず、慢性的財政赤字は減らないどころかコロナ禍対策で大幅に増え、国土狭隘の日本がミサイル時代に「戦争ができる国」になれるはずはありません。住民が60万人いた沖縄、その前に3万人いたサイパンで行われた地上戦に巻き込まれた住民の過酷な体験が継承されていません。国外の戦争でも戦場に住んでいた住民は悲惨でした。この非人道性は今でも続いています。すでに述べたように、国民を守るのは武力ではなく外交努力です。1955年のラッセル・アインシュタイン宣言は、核兵器だけでなく戦争を廃絶しなければ、人類は絶滅する可能性があるかと訴えています。

### (2) 杉原さん・小寺さんの講演に対するコメント

参考:『湯川秀樹の戦争と平和』(岩波ブックレット、2020年) 第四章 湯川から学ぶこと